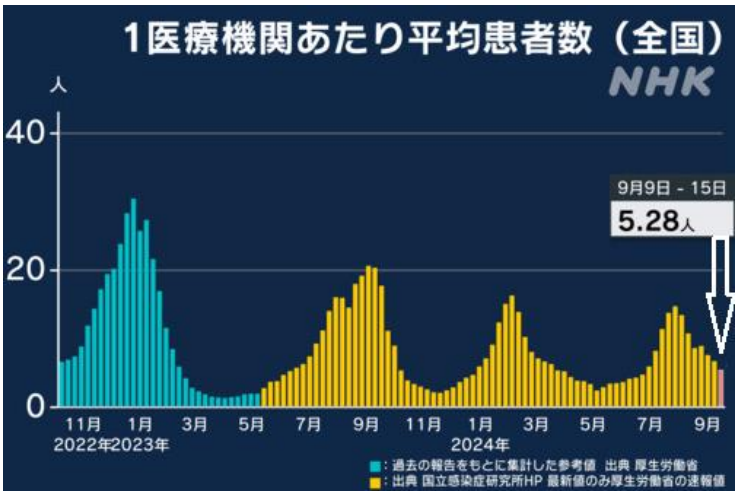
新型コロナは減少続く／子宮頚がん検診が変わります

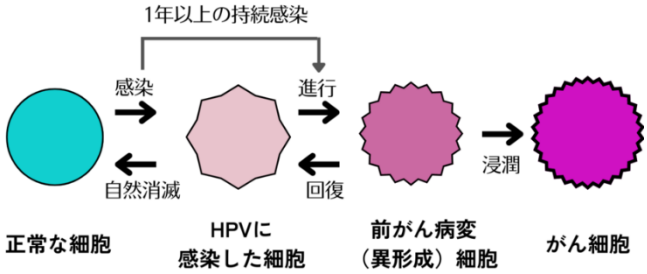
新型コロナウイルスは夏の流行となっていますがピークは過ぎたようです。9 月 15 日までの 1 週間で定点あたりの患者数は全国で 5.28 人（前週 6.57 人）、大阪府は 2.91 人（前週 4.02 人）といずれも減少が続いています。

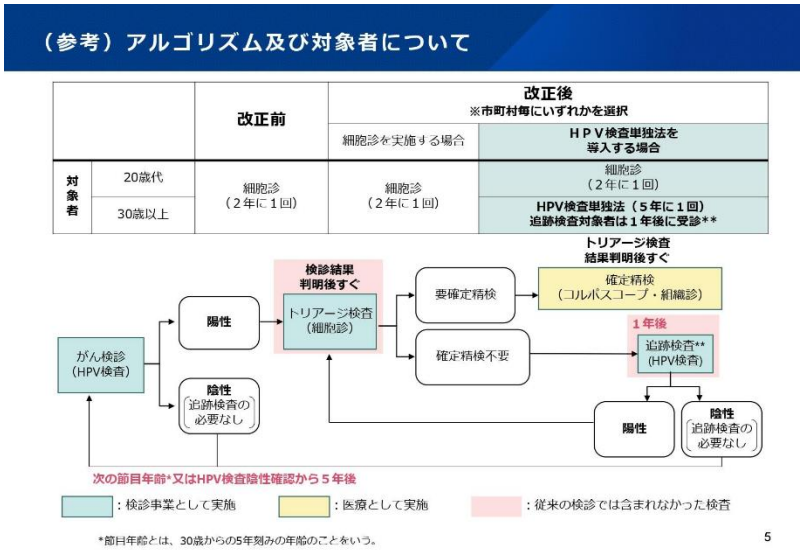


過去 10 年で最大の流行となっているマイコプラズマはまだ多い状況です。いったん減少していた手足口病が 4.49 人と警報レベルの 5 近くまで再度増加しており、大人にも感染するので注意が必要です。

子宮頚がん検診が今後大きく変わります

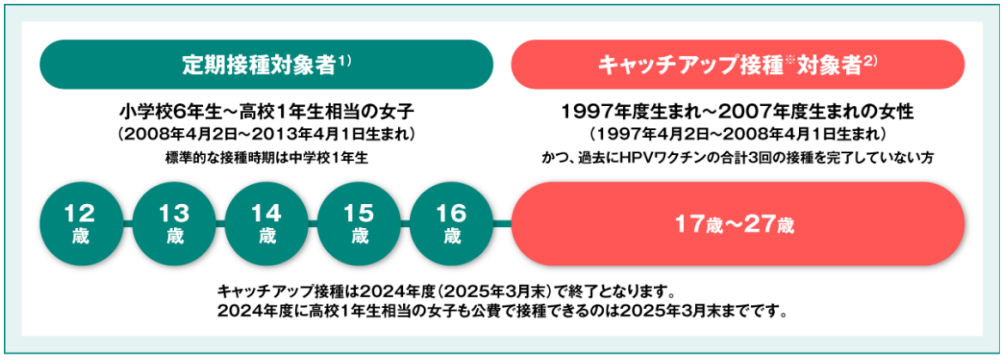
子宮頚がんは若い女性にも多いがんで、国内では年間約 1 万 1 千人が罹患し、約 3 千人が亡くなっています。子宮頚がんの主な原因は、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染と考えられています。HPV は女性の多くが一生に一度は感染するといわれており、ほとんどの人は自然に治癒ますが、一部の人が持続感染して数年から数十年かけて「異形成」という段階を経てがんになります。感染を防ぐ HPV ワクチンの接種や定期的な検診を通しての、早期発見・治療が重要とされています。





これまで 20 歳以上の女性を対象に、問診・指針・子宮頚部の細胞診および内診で行われてきた子宮頚がん検診ですが、2024 年 4 月より、厚生労働省の要件を満たす一部の自治体に限り HPV（Human Papilloma Virus. ヒトパピローマウイルス）検査単独法も住民検診で実施することが可能になりました。4 月より、体制整備、関係者の理解・協力等が得られた市町村から順次、指針に基づく HPV 検査単独法が導入されています（大阪市は未実施）。

図1：HPVワクチンの公費助成 2024年度の対象年齢



一方で、HPV ワクチンの積極的勧奨の差し控えにより、接種機会を逃した方に対して公平な接種機会を確保する観点から、令和 4 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで、3 年間キャッチアップ接種が実施されています。

公費で受けられる HPV ワクチンは、2 価ワクチン（サーバリックス）、4 価ワクチン（ガーダシル）、9 価ワクチン（シルガード 9）の 3 種類があります。シルガード 9 は 2023 年 4 月から公費で受けられるようになり、過去に他のワクチンで 1～2 回接種した場合に変更して接種した場合も定期接種の対象となります。但し 3 回接種を完了している場合は有効性と安全性のデータが限られているため対象外となります。 2024 年 9 月 27 日　産業医　井戸　正利